

1 単 元 掛け軸の言葉を書こう

2 目 標

- 文字の字配りを考えて、めあてに合う手本を作ったり執筆姿勢を選んだりして、意欲的に掛け軸を作ろうとすることができる。
- 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決め、字配りよく書くことができる。
- 友達の文字にアドバイスをしたり、友達の良くなったところを互いに認め合ったりすることができる。

3 指導計画（全4時間）

- 第1時 いろいろな大きさの紙に掛け軸の言葉を試し書きし、学習の計画をたてる。
- 第2時 下敷き・練習用紙を作る。
- 第3時 自分の作った下敷きを使って書く。
- 第4時 字配りを考えながら、清書する。（本時）

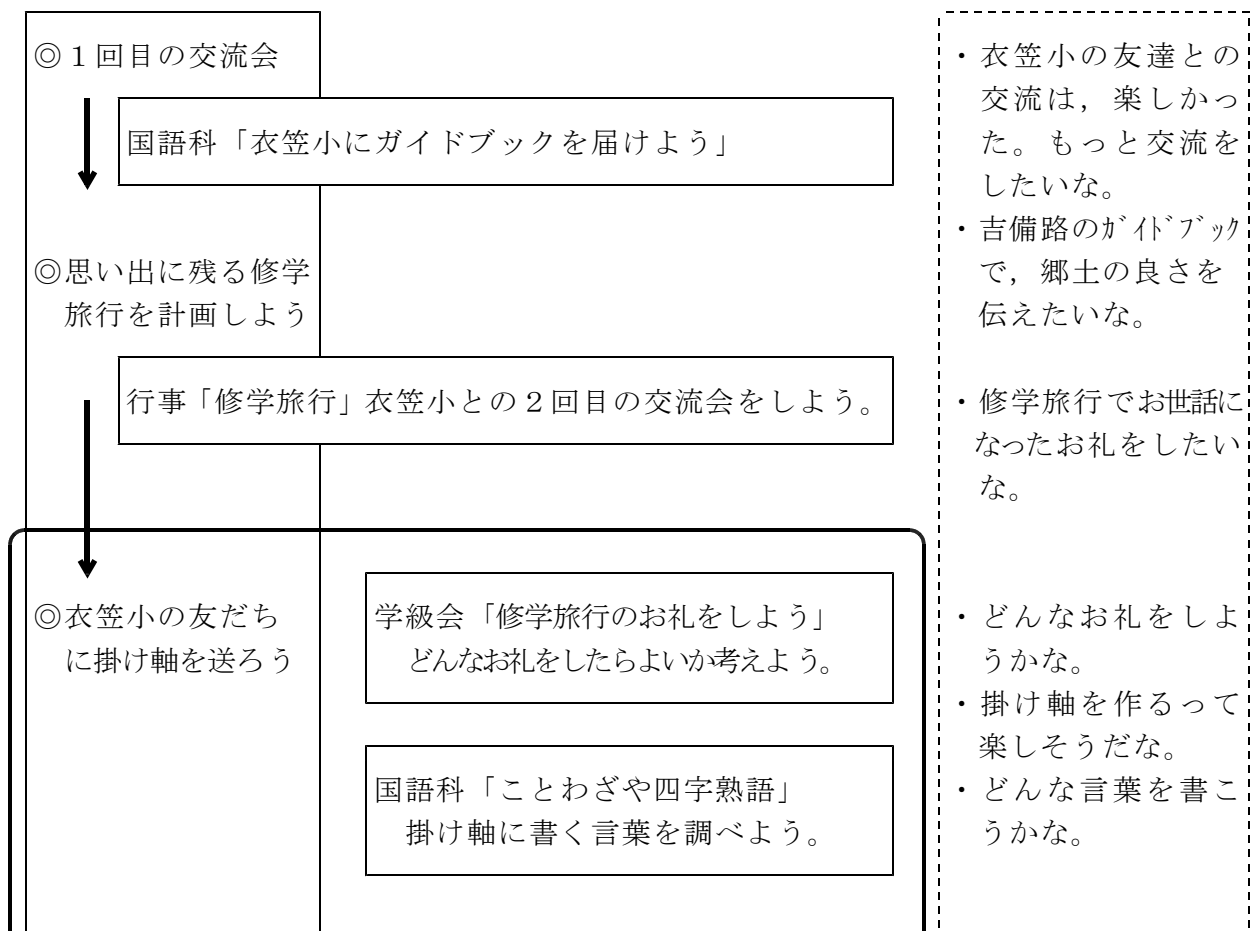
4 関連構想図

<総合的な学習の時間>

<教科・領域等>

<児童の意識>

「衣笠小との交流をしよう」



・お手本を作ろう

国語科書写「掛け軸の言葉を書こう」
(全4時間)

・手紙を添えて、
感謝の気持ちを
届けよう。

図画工作科「掛け軸を作ろう」
はんこを作ったり、表装をしたり
しよう。

・どうすれば、うまく書けるだろう。
・字配りに気をつけて書いてみよう。

・はんこを作ったり表装をしたりして、心のこもった掛け軸にしよう。
・手紙も書こう。

5 関連的な構想について

本校の6年生は修学旅行を核として、京都の衣笠小学校との交流を数年継続してきた。本校に訪問した際の交流活動では備前焼の制作に取り組んだり、衣笠小学校を訪問した際は京都の文化財を紹介してもらったりしている。国語科「ガイドブック作り」では、衣笠小学校の友達に吉備路のガイドブックを送るという活動にも取り組んだ。

そこで、この交流活動の一環として、総合的な学習の時間と国語科、図画工作科等と関連させて、掛け軸作りに取り組ませることで、児童一人一人が「衣笠小学校の友達に修学旅行のお礼をしよう」という目的意識をもって意欲的に活動することができると考えた。

掛け軸に書く言葉を決めるために、国語科や総合的な学習の時間に、図書資料やインターネットで情報収集をしたり、総合的な学習の時間や国語科書写で、自分たちで書く文字の手本や下敷きなどを作ったりして、主体的な活動ができるようにする。さらに、図画工作科の時間に、裏打ちし手作りの落款を作って押すことで、作品を仕上げた満足感をも味わわせたい。

このように、衣笠小学校の友達との交流をより深めるという目的意識をもつことで、意欲的に活動することができるよう支援していきたい。

6 指導上の立場

- 第5学年及び第6学年での書写毛筆の指導事項に「点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「字配りよく書くこと」があげられている。

本単元は、これまでに学習してきた点画の筆使いや文字の組み立て・字配りについての発展的学習として、児童一人一人が、書く文字を考え用紙を選び、選んだ用紙と文字との関係に注意して字配りよく書くように計画している。

そこで、児童一人一人が学習の見通しをもつことが重要となるため、本単元の1時目に、掛け軸に書きたい文字を様々な大きさの用紙・筆を使って試し書きをさせる。その活動の中で、児童は「もっと良い文字を書きたい」「もっと大きな筆や紙を使いたい」「手本や練習用紙が必要である」「友達と練習したい」などという思いをもつであろう。その思いを次の活動につなげ、一人一人が学習の見通しをもつことができるようにしたい。

文字の大きさや字配りなどについての既習事項の理解がより重要となるため、「書写コーナー」への掲示も有効に活用したい。

また、似ためあての児童がグループで練習することで、学習意欲が高まり、相互評価がしやすくなると考える。

- 本学級の児童は、1学期に「飛ぶ」で文字の大きさを考えて字配りよく書くこと、2学期に「夕やけ雲」で余白をを考えて字配りよく書くことについて学習した。教師の用意した練習用紙（籠書き・骨書き・枠書き等）の中から、自分のめあてに合ったものを選択して、練習に取り組むことはできていたが、漢字とかなの大きさや文字の中心、余白、字間などに、日常的に注意して書くことができる児童はまだ少ない。

そこで、既習事項を生かし、自分たちで手本や練習用紙、下敷きを作ることで、字配りについて強く意識するとともに、より主体的に学習に取り組むことができるようにしたいと考える。

また、文字を上手に書きたいという思いはあるものの、自分の書く文字にあまり自信がもてない児童もいるので、2学期から、付箋を使ってよいところや伸びを相互評価できるようにした。他児から賞賛されて、うれしそうな顔をしている児童も多く見られるようになり、少しずつ自信につながっている。本単元では、児童それぞれが違う文字を書くため、友達との比較ではなく、自分の伸びをより見つけやすくなるのではないかと考える。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時では次のように学習過程の工夫や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、めあてごとに練習する場を設定し、自分のめあてを明確にすることで、自分がどのように字配りに気をつけて書けばよいかが分かり、意欲をもって学習に取り組むことができると思う。

すすめる活動では、以下の工夫をし、見通しをもち基礎・基本を押さえながら練習することができるようにする。

- ① 下敷きや字形練習用紙を自分たちで用意することで、自分の見通しをもち学習をすすめることができるようにする。
- ② ひじを挙げてのびやかに文字を書くことが定着していない児童には、立位の執筆姿勢を勧めることで、正しい姿勢を定着させる。また、文字の大きさ・余白などの字配りについての掲示をしておくことで、字配りについていつでも確認できるようにする。
- ③ 練習の途中にアドバイスをする時間を設けて、グループ内で児童相互の学び合いができるようにする。

たしかめる活動では、試し書きとまとめ書きを比較して自己評価・相互評価をすることで、自分自身の伸びを知ったり自分とは違った友達の良さを感じたりすることができ、進歩した喜びを味わうことにつながると考える。また、めあて別グループ（文字の大きさ・文字間・行間・余白）で評価することにより、個々のめあてに沿った相互評価がより具体的にできるのではないかと考える。

7 本時案（第4時）

目 標	○ 字配りに気をつけて書くことができる。 ○ 自分や友達の伸びを見つけ、伝え合うことができる。			
学 習 活 動	教 師 の 支 援		評価内容	準備物
1 めあてを確かめる。	○ 前時に決めためあてを発表し、自分のめあてを意識して取り組むことができるようにする。 ○ それぞれのめあてが分かるように、体育館の壁にめあてを表示しておく。 ・文字の大きさ ・上下・左右の余白 ・行間・行の中心 ○ 見通しをもって学習できるように、練習時間を知らせる。			めあての表示
自分のめあての字配りに気をつけて書こう。				
2 練習をする。	○ 自分のめあてに合った練習の場に移動し、執筆の姿勢を決めさせることにより、意欲的に取り組めるようにする。 ・作業台（立位） ・児童机（座位） ・床（正座） ○ 前時の反省をもとに作り直した下敷きを使って、めあてに向かって練習することができるようにする。 ○ 字配り以外に字形について練習したい児童には、練習用紙を用意させ、自信をもって文字を書くことができるようにする。		下敷きを生かして作品を書いている。（観察）	作業台 児童机 児童作成の手本、 下敷き、 練習用紙
3 友達にアドバイスをする。	○ 2人組みで書字過程を見合うことで、アドバイスしやすくする。 ○ アドバイスタймを設定し、グループ内で児童相互の学び合いができるようにする。			
4 まとめ書きをする。	○ アドバイスタймでの学び合いをもとに、再度めあてを意識して、まとめ書きをするように助言する。		文字の大きさ、余白、中心などに気をつけて書くことができる。（作品）	
5 よいところを見つけ合う。	○ 全員の試し書きとまとめ書きを並べて掲示し、伸びを見つけやすくする。 ○ 自分や友達のよいところ、伸びた点を付箋に書いて貼り、互いのがんばりを認め合い成就感をもてるようにする。		自分や友達のよいところ、伸びた点を具体的に理由を付けて書いている。（付箋）	付箋